

<すぐに効果の上がる、英語学習の方法を、ご紹介します>

一度学んだすべての英語教材を、ていねいに「復習」し、マスターしましょう。

そのために、①「意味調べ」②「音読練習」③「書き取り練習」を、ていねいに、致しましょう

開倫塾
塾長 林明夫

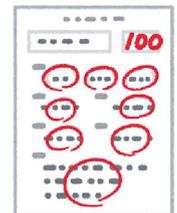
1. はじめに

- (1) ①このとおり行えば、だれでも、英語のテスト、「学年末試験」「英検」「入試」でよい点が取れます。
 - ②英語の学校成績、入試偏差値が、一気に上がります。
 - 大学入試、高校入試の英語の偏差値が、今からでも、10～20アップします。
 - ③「英語の4技能」も身に着きます。
- (2) やり方は簡単です。「一度学んだ英語のすべて」について、
 - ①「意味調べ」、
 - ②「音読練習」、
 - ③「書き取り練習」①～③を、ていねいに行い続けることだけです。
- (3) 目標は、一度学んだ英語を用い、「自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ようにすることです。



2. <何を用いて、この英語の勉強をするか>

- (1) <学校で学んでいる英語の教材すべて>
 - ①「学校教科書」
 - ②「学校問題集」
 - ③「学校で配られたプリント」
 - ④「学校で行われたテスト問題全部」
- (2) <開倫塾で学んでいる英語の教材すべて>
 - ①「開倫塾のテキスト」
 - ②「開倫塾の独自教材」
 - ③「開倫模試」
 - ④「業者模試」
 - ⑤「英検過去問」
 - ⑥「入試過去問」
- (3) 「家庭などでチャレンジしている、英語教材のすべて」



3. <ご提案>

- (1) 「学校」「開倫塾」「家庭」などで学んでいる、英語の教材すべてについて、今日から、
 - ①「意味調べ」
 - ②「音読練習」
 - ③「書き取り練習」この3つを、「復習」として、ていねいに、行いましょう。
- (2) もちろん「予習」としておこなっても OK です。はじめは、「復習」として行い、「慣れてきたら」、「予習」として行いことを、おすすめします。
- (3) 学校を卒業後は、「自分一人の力で、この3つを行うこと」をおすすめします。
 - 「予習」は、社会に出てから、一人で英語で学ぶための「準備運動」と考えましょう

4. <意味調べ>

- (1) ①「意味調べ」は、あとで教材別に整理しやすいように、「ルーズ式」の「ノート」を用いましょう。
 - ②その日に、学校、開倫塾、家庭の各々で勉強した、「英語の教材」を用いて、次の手順で、
 - ③「スミからスミまで」勉強しましょう。

(2) まずは、英語の「意味調べ」です。

①「意味調べ」は「英語の辞書」を用いて行いましょう。ノートの1ページの「4分の1」を用い、「英単語」を書き写す。

次の「4分の1」を用い、「発音記号」を書き写す。その後ろの、「2分の1」を用いて、「ふさわしい意味」を、「書き写しましょう」。



②「書き写し」終わったら、その英単語を「読む練習」と、「書く練習」を致しましょう。

・「英単語の意味」の「漢字」が書けなそうだったら、「漢字を書く練習」も致しましょう。

③言葉は力、身に着けている「英語の数」は「力」です。「語彙数は力」です。

(3) ①「発音記号」も必ず書き写し、「発音練習」を。

②「発音記号の読み方」は、どの「英語の辞書」でも、前の方に出ています。

③「発音記号」の説明を読んでわからなければ、学校の先生、開倫塾の先生に質問してください。

○慣れてきたら、英語の意味が、英語で出ている、やさしめの「英英辞典」を用いての、「意味調べ」に、ご挑戦を。

5. <音読練習>

(1) 「英単語の意味」が分かったら、次は、「音読練習」です。

(2) ①「音読練習」のポイントは、「スラスラ、よく読めるようになるまで、何回も、何十回も、大きな声で、読む練習をすること」です。

②日本人の多くが、英語を話すのが苦手なのはなぜか。それは、せっかく英語を何年もかけ学んでも、「発音練習」を、まったくとっていいほど、しない人が多いからです。

③その日に解いた「英語の問題文」を含め、その日に学んだ英語を、「意味調べ」を行い、スラスラよく読めるようになるまで、繰り返し「音読練習」を行い続けられれば、英語が話せるようになります。

(3) このように、「学校、開倫塾のテキスト」「一度解いた英語の問題の本文や重要な文章」は、その日のうちに、必ず、「スラスラよく読めるようになるまで」「音読練習」をすることを「学習習慣」とすることをすすめます。

*日本人は、この「音読練習」が、あまりにも不足しています。

○「書き順」も含め、正確に書けるようになるまで、「書き取り練習」を！



6. <書き取り練習>

(1) 「音読練習」が済んだら、よく書けなさそうな語句があったら、「書き取り練習」をすること。

(2) 「書き取り練習」のポイントは、「できるだけ、美しい文字で書くことを、心がけること」です。

○多くの日本人は、「書道」を学んでいますので、「美しい文字」を書くことが得意です。

(3) ①「英語も、美しい文字、美しい文章」を書くことを目指しましょう。

②「ブロック体」、「筆記体」ともに、美しい書体で、英語で書くことを目指しましょう。

③ご自分の、住所、氏名も、美しい英語の文字、ブロック体、筆記体で、スラスラ書けるよう、練習を繰り返してください。

○多くの国では、美しい文字を書くことのできる人は、高い教養の持ち主と、高く評価され、多くの人から尊敬されます。

○あとは、皆様の考えを、よく聞いたうえで、お自分の考えを、ゆっくりでいいですから、自分のことばでいえば、OKです。

7. おわりに

(1) 中国はじめ多くの国々では、大学生も、大学院生も、一度学んだ英語は、必死で、音読練習、書き取り練習を行い、自由自在にいて、書けることを目指しています。

(2) まして、高校生や、中学生、小学生で、「音読練習」「書き取り練習」を怠っている国は、あまりありません。

(3) ①さらにいえば、音読練習を済ませたら「暗唱」、書き取り練習を済ませたら「暗記」

②毎時間ごとに、前回の、「ディクテーション（書き取り）」テストを行うことは、多くの国の英語の授業で行われています。

③「暗写（何も見ずに、学んだ英語を書く）」も、多くの国で取り入れられています。

○少しずつでも、ご挑戦ください。

<CRTラジオ栃木放送「開倫塾の時間」12月21日（土）放送内容資料です>